

第3回 静岡市市民活動促進協議会（第10期） 会議録

1. 開催日時 令和8年3月23日（月） 14時30分から16時30分まで
2. 開催場所 静岡市葵消防署 7階 講堂
3. 出席者 （1）出席委員 山岡会長、木村副会長、大村委員、川村 栄司委員、川村 美智委員、佐々木委員、柴田委員、白土委員、西委員、増田委員、
（2）事務局 石川市民自治推進課長、渡井係長、中村副主幹、今西主任主事

4. 傍聴者 0人

5. 内容

（1）会議の成立及び公開

委員12名中、10名の出席があるため、条例第14条第2項の規定により会議が成立していることを確認した。また、会議の傍聴及び会議録は公開するものとし、非公開とすべき事項が生じた場合に、その都度、その旨の決定することを確認した。

（2）議 事

（山岡会長）

初めに「第5次静岡市総合計画」、「来年度の事業」、「今後のスケジュールについて」の説明を事務局からお願いします。

（事務局説明）

- ・第5次静岡市総合計画について
- ・来年度の事業について
- ・今後のスケジュールについて

（山岡会長）

盛り沢山だと思うのですが、今の説明の中で、何か質問や確認したいことなどありますかでしょうか？

5次総ができるということと、5次総を踏まえての中間見直しという部分はこの後のところで細かく確認しないといけないのですが、あとはここからネットの廃止。これはもう決定で半年後ということかと思えます。

それと、市民活動支援施設と生涯学習施設一体にするということを検討するという、結構大きな動きだと思うのですが、それに伴うスケジュール変更ということですか。

(白土委員)

生涯学習施設と市民活動センターの統合のお話はまだ決定ではないということですが、私が知識不足で、パブリックコメントというものがどういうものなのか分からず、どういう流れで、今後の決定を左右するのか教えていただけたら嬉しいです。

(事務局説明)

まずパブリックコメントとはというところなのですが、市民参画手続きというものの一つとなっております。市民参画手続きって何かというと、要は施策をやるにあたって市民の意見をしっかり聞いてみようというような制度になります。

具体的には今私が説明したような統合について、統合だけではなくて、市全体でいろいろな施設を最適化する動きがあり、これについて検討をしていくのですが、市民の皆さん何か意見がありますかということ、近日中に、インターネットで貼ったり、各所管課で募集をしたりする。そこで、「ここについて私はこう思うのだけれど」というような意見を市民の皆さんからいただいて、それについて反映できる部分については反映をしていくということになります。これについては今回の統合だけではなく、例えば新しい条例を作る、新しい計画を作る、駅前の整備をするというようなものについても、パブリックコメントをやっているものですから、そのような形で市民の皆さんの意見を聞いた上で、どうしていくのかというような改善をしていく制度になります。

なので、今日の協議会でもご意見いただくところもあるのですが、興味があればパブリックコメントが近日中に開始される予定ですので、そちらについてもご意見等出していただければありがたいです。

(増田委員)

先ほど会長からお話があった通り、すごく大きな変更だなと思いながら資料を拝見していました。市民活動センターは市民自治推進課、生涯学習施設は生涯学習推進課の管轄なのかと思っていたのですが、管轄課が今後どちらになられるのか。それとも機能としては残るから別々に管理をされるのかを教えていただければありがたいです。

(事務局)

おっしゃる通り、市民活動センターというのは我々市民自治推進課が所管で、生涯学習施設というのは生涯学習推進課が所管になっております。結論から言いますと、まだその辺りもこれから検討していくところになります。

そこをどうしていくのかっていうのは非常に重要な問題だとは思いますが、どちらかに寄せるのか、それとも一緒に管理をしていくのかっていうのは、こういった市

民の意見が出るかというのもあるのですが、その辺りを含めて検討していくところです。すみません、まだ検討中ということです。

(西委員)

私も市民活動センターと生涯学習施設の統合についてなのですが、私は草薙カルテッドの事務局を務めており、草薙が位置しているのが有度地区当たるので、有度の生涯学習交流館をよく利用する機会がありまして、最近是有度地区のまちづくりの人材養成講座を生涯学習交流館が主催して、それをきっかけに、新しい団体が生まれて、活動の伴走支援まではいかないのですが、ご相談日を設けたりしてということをやっているから、この統合の案を見て、私はあまり違和感を覚えなかったです。

逆に市民活動センターが私の近隣にはないので、あまり利用する機会がなく、イベントの時にいたり、たまたま打ち合わせ会場が市民活動センターだったりというときしか利用がないので、現状、伴走支援や既にある団体が活動しやすいようにサポートするというのが、具体的にどんなことをされているのか、どういう機能を担っているのか教えていただくとありがたいです。

(事務局)

市民活動センターはどういったことをやっているのかということだと思います。市民活動をこれから立ち上げたい人が、どうしたらいいかという相談を受けたり、既に市民活動団体を立ち上げて活動している方が、こういう活動をどうしたらいいかというようなことであったり、例えば事業報告書や事業計画書などをどういう形で提出したらいいかというような事務的な相談も受けています。

事業報告書などが市民自治推進課に回ってくる中で、具体的な件数がどれぐらいということは今この場でお答えができないのですが、結構な件数が相談ということで対応をいただいています。

さらに会議室等もあるものですから、市民活動団体が活動したいけどなかなか場所がないよということであれば、そこで活動をしてもらうといったことをしているところになります。

(西委員)

繰り返しになるのですが、有度地区では、学んで、団体を立ち上げて、サポートを受けたいという流れができつつあり、有度地区にそういった支援の機能が備わったらありがたいなと思ったので、個人的にはこの統合の話にいいイメージを持っています。

(山岡会長)

もう既にそういう流れを作りつつある、できつつあるということですね。

私は今まで市民活動の推進において生涯学習との連携が特に必要だという話は協議会の中ではほとんど出てきていなかったもので、唐突な印象を正直受けます。課題のところに学習機関と市民活動支援機関の連携が不足しているとか、学んだことを生かしたいという市民の希望に十分答えられていないとありますが、このへんは何かアンケート結果とか具体的に根拠となるようなものがあったのですか？

(事務局)

アンケートを取った結果、こういった結果が出ているということなのですが、このアンケートを取った対象が、生涯学習施設を利用している方、講座を利用している方になります。今、西委員が少しおっしゃってくれたのですが、静岡市は他都市と比べて、地域人材、地域貢献の人材を育成するような講座を比較的多く行っていると伺っています。その中で例えば「こ・こ・に」というのは人材育成の講座を取りまとめたもので、そういった講座を受講してくださった方にアンケート取り、その後、実際に活動につながっていますかというふうに聞いたら、20%ぐらいしかつながっていますと云ってくださらなかったというアンケート結果が出ております。

ですので、受ける意欲があって、わざわざ講座を受けただけで、そこから先がどうやったらいいかわからないというところで、止まってしまっている方が結構多いのかなというようなところもあったものですから、そこは支援が必要だろうと考えています。

付け加えていうと、今まで、そこは視点が足りなかったなと思う部分なのですが、生涯学習の所管の部局と連携が取れていなかった部分があったものですから、講座を受けた方を支援してこうと、例えば受講した方がどこにいらっしゃる方なのかなどの情報が市民活動センターの方に伝わっていなかったため、その辺は複合化の前からできる話かなと思っていますので、センターの役割として、伴奏支援をしていくという形で考えているところです。

今後検討を進めるにあたって、実際に一つの施設の中に複数の機能が入ることになる場合、指定管理者にお願いすることになると思うので、担ってくれる方がいるかどうか分からないと検討のしようがない部分があるものですから、一例として、アイセルに集約するのであれば、どういった関わり方ができますかね？というようなかたちで、現指定管理者や広く興味がありそうな方に公表して意見を伺っているというような状況になります。その場合、資本力があるところに集約されてしまうのではないかなというようなご懸念があるかと思うのですが、我々としてはそこを考えているわけではなくて、先ほど増田委員からもお話がありましたけれど、誰がどのように管理していくかというのははまだ決まっていない中で、効率的なやり方をどうしていこ

うかということで、まずは一つの管理会社が施設一つやっていただくというのが分かりやすくてよいかなどは思っております。

ただ、その場合、一つの企業があるいは一つの団体がやるかというのは、必ずしもそうではないと思っていて、いわゆるJV（ジョイント・ベンチャー）みたいな形で複数の団体がそれぞれの長所を生かしてやっていきます、ただ、やるにあたっては一つの団体としてまとまってやりますというやり方もあり得ると思っておりますし、逆に市民活動センターで言うと、他都市の事例とかを見ても、指定管理で受けてくださっている方が地元のNPOさんたちや、社会福祉協議会さんなど、そういう地域のことを分かっている団体が多いものですから、我々としても、仮にどういう形になったとしても、そこは指定管理の仕様の中で、地域力の向上ということも掲げるものですから、きちんとそういう地域に根差した形の支援ができるような能力というか、網をかけていくというようになるだろうなと考えているところです。

（山岡会長）

それは非常に重要なことだと私も思っております、この説明だと、市民へのサービスの質を高めることを目指して、相乗効果を期待して統合するのだという説明ですけど、当然統合することによるマイナスというのも想定されるわけですね。そこをきちんと精査した上で、どういう形にしていくかを考えていただかないと。例えば施設の管理がどうなるかということもそうです。

もちろん生涯学習から学んだことを生かして、市民活動につながればそれはそれでいいのですが、別に全ての生涯学習がそうでなければならないわけではないし、そういう人達にとってはどうなのかとか。あるいは生涯学習って、どちらかというと、スペースを使うことが前提ですね。そういう活動と市民活動が競合というか同じスペースを使うことで、使いにくくなったりしないかとか。そういうマイナスの面が当然あると思うので、いいことだけ提示してパブコメをしたところで、こんなふうによくなるならいいんじゃないと進んでいくような気がします。

（木村副会長）

あまり理解していなくて申し訳ないのですが、今回、市民活動センターと生涯学習施設を同一にするというのは、同一の機能を有した生涯学習センターが、葵区、駿河区、清水区に1か所ずつということなのか、あるいは、市民活動センターは市内に2か所ある一方で生涯学習センターは何か所かあるという中で、住民からしてみれば、近くの生涯学習センターでこの両方の機能を受益できるというか、受けられるという、身近な生涯学習センターで、これまでの生涯学習センターの機能と、今までなかった市民活動の機能を受けられるという、前者と後者、どちらの統合なのかということをお教えください。

(事務局)

今のところだと、前者なります。各区に3か所市民活動センター、市民活動支援機能を備えている施設があって、それぞれ生涯学施設が各地区にあるのですけれども、そことの連絡に関しては、基本的に各区のセンターから出かけて支援にいくというような形になるのかなというふうに考えています。そのあたりもまだ検討中というところです。

(木村副会長)

パブリックコメントというと、私の認識だと、計画もある程度の確定した計画案が作られて、形があるものが示されて、それに対してご意見いかがですかというような形で意見をもらうので、住民の意見って、それが大きく変更に影響するほどのものではなかったりするのですけれども、今回の場合、出されるパブリックコメントというのは最終案のようなきっちり決まったものではなくて、抽象的なもの出され方なのか、そうでないと市民の受け取り方というか、意見の出し方も結構いろいろあると思うのですけれども、その辺りはどのようになられるのですか？

(事務局)

今回出すものに関しては、市民活動センターの部分以外にも、ある区にはいろいろな施設があるが、ある区には生涯学習施設すらないというようなデコボコを慣らしていくことだったり、講座の内容も各区でバラバラだったりすることから、平準化していこうというようなことも含めた形で、今後市として検討していきますという方向性をお示しして、案をいただくことを考えています。

施設のことにに関して、センターがどこの施設に行くのか、あるいは平準化というところで、ここの施設に関してはどうかというような話が細かく出てくるかと思うのですが、今回はそこまでの話ではなく、こういう形で市としては考えていきたいと思っていますという大きな方向性で、個別の話に関しては、もっと地域の方の意見を踏まえつつ、どこをどういう風にしていくかは決めていきますというような出し方になりますので、今おっしゃられた中で言うと、抽象的な形の意見の伺い方になると思います。

(山岡会長)

パブコメ次第でその方向性が変わっていく可能性も十分あるということですか？

(事務局)

はい。案をまだ決めていないですし、大きな方向性の部分ですので、意見の内容によっては変わっていく可能性は十分にあります。

(佐々木委員)

スピードについていけないので、改めてお伺いしたいのですが、市民活動センターと生涯学習施設がどこにどのぐらいの数があるかが正直わかっていない。番町や清水は分かっています。駿河区はそういえばないなと思っていて、この図を見ると、それぞれの区に市民活動センターと生涯学習施設、合わせ持ったものを一つずつ各区に作りますよということであっていますか？

(事務局)

はい、今のところはそうです。

(佐々木委員)

そういうふうに場所が変わったり、もっと拡充されたりする。それぞれの区にしっかりとしたものが市民活動センターと生涯学習施設できる。区分けがよく分からないですけれど。

参加していない、全然出かけていない人は行ったこともない施設、何をやっているかも分からないし、通っている人は「場所が変わっちゃうんだ」なのか、「よく分からないけど、充実するんだ」なのか、関わり方によってパブコメも書きようもないので、使っている人は「困ります」と言うし、使っていない人は「そうなんだ」みたいな、そういうふうなのではないかと思ってしまいました。

指定管理についてのお話があったと思いますが、これだけに限らず、市長は「今までこうだ」ではなく、新しい知恵や、新しい関わり方をしてくれる人を募って、より効率よく動く風が欲しいというか、どんな形になってもいいけれど、とにかくより良くなって、よりお金がかからなくて、よりサービスが向上される場所を選びたいというのを明確に示しているように思うので、それはいいことだと思うのですが、そういうことも含めて、今回の統合を考えていますというのをうまく伝えないと、「ただ場所が減っちゃうんでしょ」とか「人を削減したいだけでしょ」みたいになってしまうと、実際にサービスを受けている人は良くなる印象を持たないと思います。

パブコメは「そうならいいよね」となるためのお言葉が多い方が、市としては楽なはずなので、書き方が非常に重要なのかなと思います。

(川村 栄司委員)

5次総も、市長がかわって出てきたわけですが、私の憶測では、市の問題意識として、収支が厳しくなるので、統合できる場所はしたいというのが頭の底にあるのではないかと思います。その前提で、今あるものを合体させていくと。でも、それには理屈付けが必要だよなという。それこそ、アウトプットから逆に組み立てていくという面があるのではないかと思います。

問題になっている市民活動センターと生涯学習施設の合体という話も、突然出てきて、いきなりパブコメということになるわけですけど。

そもそも全然成り立ちが違うと思うのですよね。生涯学習は、元は公民館と言っていたところだと思うのですが、地域の人が集まったり、学習とあるように、生涯生き生きとした人生を送るために学び合いましょうといったことをしたりするのが生涯学習センターであって、そういう意味で社会教育的な背景の下にあるものだということふうに思います。

市民活動センターというのは全く違って、1995年の阪神淡路大震災の後、急速にボランティアの活動が活発になり、いろんな団体が活動するときに法人格もあった方が活動しやすいということで、NPO法が施行され、そういった背景の下に市民活動をもっと盛り上げていく、社会の中に基盤として設けていくための市民活動センターだというのが私の理解です。

実際、協議会も今第10期ですが、第9期は市民活動センターのあり方を協議し、2年かけて答申も出しています。市民活動センターに関してはそういうことをやっている。生涯学習センターはもっと歴史が長いと思うのですが、そもそものあり方、現代に即してどういうふうにしたらいいのか、過去はどうだったのかというような振り返りをちゃんとやったのかどうかを私は知らないものですから、やった上で、この二つのバックボーンの異なる機能を同居させるという議論をするならいいのだけれど、そういう議論が飛ばされてしまって、正直、経費節減のためではないか。

今回の5次総もベースになるのは少子化ですよ。人口の目標をどのくらいに置くというのが5次総の根っこにあるので、逆算して、そこからやれるものはなるべく合理化しろというのが、正直なところではないかというのが私の見るところです。

西委員のところはいろいろ活動されていると。しかし、市民活動センターというのがよく分からないというのも、実はこれからの市民活動センターに求められる役割についてという答申を第9期で出す時に議論になっていて、高齢者の利用というようなデータはあります。ところが、番町市民活動センターに行ったことがある方は分かると思うのですが、誰もが利用できる場所ではないのです。バスの便も悪く、車で行けるが、駐車場も十分ではないというようなロケーションもあり、それでは無理というところと、若い人は今、自分たちの活動が市民自治や市民協働とかではなくて、どんどん行動し合っているのです。行動し合っていて、自立しているため、市民活動センターというものがあろうがなかろうがやるのだということで、そこが結びついていない。結びついていないので、市民活動センターはむしろそういうところの活動もちゃんと取り上げて、把握していく。それから、アウトリーチも大事だという話が出ています。ただし、アウトリーチをやっていないかということ、必ずしもそうではなくて、やっていることはやっているのですよね。そういう評価もありました。

第9期の協議会の中で、僕が大事だなと思っているのは、市民活動センターという

のは行政の委託になるものですから、仕様書があるのですよね。仕様書があって、こういうふうに運営してくださいという決まりがあるものですから、その中でしかやれない。仕様書がそもそも硬直化しているのではないかということも、答申の中で記載されているのですよ。

市民活動センターに関してはそういう議論もしているということがある一方で、生涯学習センターはそういうことがされているのか。議論をしたうえで、しかし、こういうご時世だから、生涯学習というところでいろいろ勉強をしながら、地域の人たちがつながるので、それを自主的な活動につなげていったら良いのではないかという流れにするのであれば、まだ分かるのですが、先に結論ありきみたいな話になってしまっていて、もうパブコメみたいな。今パブコメを出されたって、出された市民の方は判断基準がないと思います。パブコメに回答のしようがない。これに回答できる人というのはここにいらっしゃるメンバーとか何らかの形で市民活動等の経験がある人であって、普通の市民は、「無駄を削除するにはその方がいいよね」くらいのことしか短時間では考えつかないと思うのですね。ですから、やり方ですね。今からそんなことを言っても遅いのかもしれないですし、この場で意見を出すことに意味があるのか分からないですけど、ちゃんと議論してもらいたい。振り返りを含めた議論をしていただきたいと思います。

(事務局)

先に結論があるのではないかというようなご意見もいただきましたが、本当にそういうわけではないです。当然市長とも話はしているのですけれども、まずは市民サービスの向上の部分に目を向けなさいというような話の中で、ここに至っているとご理解いただきたいと思います。

それぞれ成り立ちが違う施設が一つになることに関してなのですけれども、今、生涯学習施設で地域力の向上に関する人材育成の講座などをやっていて、そこがうまく市民活動と接続できていないというところはあるのかなと考えています。

番町で言っても、3階4階の部分は特別支援センターという教育委員会の施設がありますので、必ずしも別のものが入っていることに関して、それぞれのバックボーンを統治した上でという話でもないのかなと思っています。要するに、効果として市民のためにより向上するような形であれば、相乗効果を狙って、箱を一緒にする、一つの施設にしていくというのはあり得るのかなと認識しているところです。

また、地域の中に入っていくというような部分は、今、利用者が限られてしまっているというお話があったかと思うのですけれども、番町の利用者のアンケートを見ると、ご指摘の通り、築区在住の方が非常に利用されているという部分もございます。一つはアクセスの部分もあるかなと思うのですけれども、親しみがないといった部分もやはりあるのかなと思っただけで、地域の中で課題を見つけて、それをセンター

の方で主導して、解決に導いていくというようなことをやっていくにあたって、例えば駿河区で、そういう活動をしている人を見つけに行くと言った時に、それが果たして番町というところからがいいのか、あるいは駿河区の方に一つ拠点があって、そこから行った方がいいのか。どちらも利点はあるかなと思うのですが、地域の中に入って行く時に、区ごとの拠点があった方がいいのではないかなというふうに感じています。

(大村委員)

生涯学習施設には交流館も含まれていると認識していますが、特に清水区には交流館が多い印象を持っています。当社では交流館を活用し、地域の子どもの向け環境教育をボランティアで実施していますが、施設内を見渡せば地域団体による作品展示等も行われており、地域に親しまれている状況をとあわせ、施設ごとに利用状況や地域での役割、愛され方に違いがあると感じています。また、清水区の交流館は災害時の避難施設としての役割も有していると聞きましたが、停電時対応や設備面（バッテリー等）については設備が十分に備わっていないと認識しています。行政の資産（施設）は市内各所に存在する市民の財産であり、平常時は市民活動や生涯学習の場として、非常時は避難施設としての機能を果たすなど、多面的活用が重要と考えます。私どもはインフラ事業者なので、安全・安心な社会基盤があってこそ市民活動や文化活動が成り立つと認識しています。市長が示している「市民の財産を市民のために活用する」という方針は重要であり、この方針を維持したうえで、施設の活用方法の見直しや統廃合も含めた検討を進めるべきと考えます。

(山岡会長)

多分色々まだご意見あると思いますが、ここからネットについて何も出ていませんがいかがでしょうか。

(佐々木委員)

ここからネットのもとも入っている内容を移管して、もっと検索しやすくなるという意味ですか？

(事務局)

来年度9月に市民活動支援システム「ここからネット」は廃止ということで、一旦そこで市民への公開は終了という形になってしまいます。検討中ではあるのですが、市が活動団体を管理しておかなきゃいけないよねというところはあるので、市の中でノーコードアプリを使って管理をするというところまでは決まっています。その後、その活動情報を外に発信するかというようなところまでは、今はまだ検討段階

です。

(山岡会長)

要するに市民から見たら単純になくなるということですよ。

(佐々木委員)

NPOをいくつかやっているのですけれども、この3月までで、ここからネットの変更点ありませんかとかをファックスで返信したり、QRからいちいちここを直してみたいのは問い合わせがあったりしたのですけれども、これが今年で閉じるということですよ。では、そのお伝えした内容はどこに消えてしまうのですか？ということに登録している人達はなるのではないかなと思うので、ノーコードでもキントーンでも、その情報はどこに行きますかというのを示してあるといいかなと思ったのですけど。

(事務局)

4月以降、何月というのはまだ定まってはいないのですが、今ここからネットに登録してくださっている団体には通知を送らせていただきます。ここからネットが廃止するということと、今登録されている情報は市で引き続き管理しますというようなところは通知の中で記載させていただこうと思っております。まだ外部に発信はできていないのですけれども、来年度なくなる前に団体には通知を送らせていただくのと、ホームページ上等でも廃止の周知はさせていただきます。

(佐々木委員)

今、会長がおっしゃったように、どんな活動しているかということについて、ここからネットの中で多少でも一生懸命発信しようとしている方は、そこに打ち込んでいる内容も全部なくなり、発信したいということについてはできなくなるということですか？市の中で管理するというと、どこの団体が誰が代表だという名簿を市の中で管理して終わってしまう、やろうとしていることについて、ここからネットは確かに機能していなかったかもしれないけれど、一生懸命使っていた人はそういう機能がなくなってしまうということですかね。

(事務局)

団体の情報に関しては、キントーンという形で市が管理をして、ここからネット以前も、名簿にして紙でお出ししていたのですけれども、そちらについてはアプリの中でどこまでできるかなのですが、市のホームページもしくはセンターのホームページで団体の情報を検索できるように何かしらの形で出したいかなと思っています。

(山岡会長)

ただのリストになるということですね。こういうイベントやりますなど、そういうことは一切なくなるということですよ。

(佐々木委員)

各団体で一生懸命発信しようと思えば、自分たちで努力をしないと、そういう統一された何かの窓口みたいのはなくなるということでしょう。結構大きいことですけど。

(山岡会長)

私は静岡市民ではなく、使っていないので分からないところがありますが、これがなくなるということがどういうことなのかというのは、ぜひ皆さんから事務局にご意見お寄せいただけたらと思います。

先に進みまして、第2回協議会振り返りと中間見直しにおける評価の基本的視点について事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

- 第2回協議会振り返り
- 中間見直しにおける評価の基本的視点について

(山岡会長)

本日の主題である柱3、4の中間見直しについての議論に移りますが、その前に確認で、これまで我々はこの協議会の中で、皆さんそれぞれの立場で感じていることをおっしゃっていただいて、それを基本的視点ということで事務局の方で二つにまとめて整理をしていただいたというところです。その二つが、施策全体が相互に連動し、市民活動を支えられているか、市民活動への支援は、実態に即した効果的なものとなっているかと要約をしていただいたと。それを踏まえて、柱3、4の中間見直しについて議論していただくということです。

この柱3、4の見直しについては冒頭で説明があった5次総のことも踏まえて見直しをしなければならないということで、検討する際の資料について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局説明)

- 柱3、4の中間見直しについて

(山岡会長)

なかなか難しいのですが、今、施策の柱3、4に関する数値的なものが出ているものは出していただいて、あとは具体的な事例も報告いただいたわけですが、それを踏まえて、最後のスライドに書いてある成果指標数値の見直しもですかね。

(事務局)

数値も今出ているところまで見て、上げた方がいいか、現状維持でいいかといったところも意見がありましたらお願いいたします。

(山岡会長)

数値もあわせて、主に評価の基本的視点をもとに、現状、今報告いただいた数値や事例についてご意見いただきたいなと思います。感想的なことでも結構ですし。あるいはさらにもう一步突っ込んでここはどうなのか、出てきた数字以外にもこんなことがということもあれば教えていただければ。なんでも自由にご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

前回、この計画を作った時にも、数字だけで全ての評価ができるわけではないということは共有しました。その前提で見たとしても、数字的なところにはそんなに問題になる、当初の計画で立てた目標に関してそんなに気になるところはないと思っています。

この紹介いただいた具体的事例は当然いい事例なので、いいに決まっている、よかったねという話に決まっているのですけれど。この施策の連動性の確認みたいところは結構難しいと思うのですよね。一つの団体がそれぞれの支援を受けて、順番に成長発展していくということはまずない。だからやはりそれぞれの施策が、どこに位置づくのかみたいなのはきちんと確認した上で、実施をしていくということがせいぜいなのかなという気はします。

妥当性の確認も、個別の事例を見ればそれは適切に実施されているなというぐらいしか思わないけれども、やはりそうでない事例だとか、むしろ上手くいっていないという言い方が変かもしれないですけども、当初の想定とは違うような支援事例みたいなものも参照しないと判断が難しいかなという気はします。ただそれがいけないということではなく、どうしてそういうことが起きたのか、そういうチェックができないと、うまくいった事例だと妥当だねというふうにしかならない。

(木村副会長)

これからワークショップして質的評価ということをされていくわけですよ。そういった意味では、市民活動センターに登録された団体が増えていったということが数値で見えるのですけれど、例えばその登録された団体が実際に登録したもののそのま

まだだったのかとか、実際市民活動センターにどのような関わりを持っていたのかとか、どんなことを期待してどんな関わりがあったかなかったかとか、そういったところもワークショップで聞いていただくと、今後の数値も表がこれでいいのかどうかということの基準にもなるのかなと思ったので、今後、ワークショップでそういうことを聞いていただけるといいかなという感想です。

（山岡会長）

重要なことですね。一つ一つの施策の中で起きた動き、例えば、登録あるいは相談だったら、その後どうしていきたいのかを確認する。それが実際に次の施策につながるかどうかというのはまた別の話ですけれども、そういうことを期待しているかとか期待させられているかというのは分かる。

（大村委員）

私どもの会社は、地域貢献活動として自然観察教室や清掃活動に取り組んでいるが、環境を大切にする、自然を大切にすることは、魅力あるまちづくりに少しでもつながると考えるからです。そのうえで、自社の取り組みも市民活動も、評価の指標は大切なことであり、しっかりと評価されなければ活動として持続できないことは明らかです。静岡市の施策として、どういう人材を育み、どのような活動を次の世代につなげていきたいのかなという想いをしっかりと意識しながら施策に織り込んでいただければと思います。

（山岡会長）

人が育っているかということですね。それぞれの事業や活動の中で。

（川村 美智委員）

評価の指標にはならないのですが、この中で成功した事例とした時に、何がその成功の原因だったのかというところで、市とどういうふうに協働したことによって、政策に結びつけられたか、他の団体と繋がったかというような、成功の要因みたいなものを、成功事例として挙げていただくと評価するときにはすごくいいのかなと思います。

（山岡会長）

今回挙げていただいているのは本当に一つの事例ですけれども、せめて3つ4つくらいでやっていただくと、何かポイントになるような、意味みたいなものが洗い出される可能性はありますよね。

（柴田委員）

すごく難しいなど。考えることが多いということと、1個1個全部把握しているわけではないものですから、どこも言えないなど思いながらだったのですけれども、自分の肌感覚でいうところの感想なのですが、まず、この施策全体が相互に連動することを目指すのはすごくいいことだと思っています。また、この資料に載っている、職員向けの研修というのが例としては多いですね。施策4のところ。まずは職員に向けてのレベルが上がっていけば、市民に向けてのものもレベルが上がってくるというところがあると思うので、それはありがたい。後は、前の方でも散々見直しているところなので、団体同士や、市民活動をやっているもの同士の繋がりという視点というところで行くと、見直しの方向性のつながりを生む仕組みは十分かどうかというところでも繋がってくると思うのですが、市民同士の研修ではないですが、市民活動がそもそもどういうものなのかみたいなこと、市民に向けてのものが既にあるのは分かっています。番町センターでもそういう会が月1ぐらいで催されている気がします。そういったこともあるので、どこまでが十分かは非常に分かりづらいのですが、市民同士の繋がりを作るといふ工夫がどんどん増えていくと、よりこの目標に向けて進んでいけるのではないかなと思っていますので、そんな企画が増えてくると面白いかなと個人的に思っています。

(山岡会長)

「つながる、変わる」のところ、多様な主体のというふうに入れていて、そこには市民同士のというのも当然入っているはず。ただ、それは指標にはなっていないですね。それをどう捕捉するのかというのは難しく、先ほど企業の立場からのご意見もありましたけれど、市民同士もそうですし、市民活動団体と企業。そういうつながりも重要ですね。ここで挙がってきているのはあくまでも市との協働しかないけれど、そうじゃないものについても何かしら捕捉できるといいですね。

あれもこれも調べたら出てくるのでしょけれど、それをやるだけでもすごく大変だったりするし、本当にそれをやる価値があるかどうかというのもすごく判断が難しいところ。

(増田委員)

資料も分かりやすくまとめていただいていたなどと思いながら拝見しておりました。一方で、今委員の皆さんもおっしゃっている通り、それぞれの評価をするのはすごく難しいなどと感じています。少し感想のようになってしまって恐縮なのですが、特に心惹かれたのが「事業承継」の事例でした。

ちょうど今、学生の方も参加されていますが、本当に若い世代の方々——高校生から大学生まで、自分たちで活動を立ち上げるスピードがとても速くなっていると感じています。私自身も10年ほど前までは大学生でしたが、その頃と比べても、今は加

速度的にいろいろな団体が生まれている印象があります。

そうした若い世代と、これまで活動を続けてこられて、今はなかなか継続が難しくなってきた方々との間で、想いの承継が行われていくのはとても素敵だなと思いました。もちろん、資金の引き継ぎという面もあると思います。資金の処理は手間がかかりますし、団体の性質上、自分たちの手元に残すわけにはいかないとか、そういうことを良しとしない方も少なくないのではないかと感じています。

だからこそ、そうした方々の想いを、学生や若い世代の団体が受け取っていけるような仕組みや文化が広がっていくと、とても良いなと思いました。

市民活動センターがそうしたつながりの拠点になっていることが、もっと広く知られるようになれば、「寄付したい人」と「これから活動を頑張りたい人・立ち上げた人」とが自然とつながっていくのではないかと感じました。

(山岡会長)

まさに施策の柱4の議論のときに出したのですけれど、団体同士のつながりだけではなくて、活動を次世代につなげるため、その“つながる”も含まれているのですよね。

それも含めてこの柱を作っているのです。その辺の部分の評価というのは現状の中には入ってきていないので、その視点を入れて、少なくとも何らかの数値。数値で見られないという話はあるのですけれど、その視点をしっかり入れた方がいいだろうというのはおっしゃる通りだと思います。

(木村副会長)

その延長で言えば、私もうろ覚えなのですが、例えば施策の柱4で、多様な主体の相互理解と協働の促進で、福祉、教育、環境、産業、様々な分野の横断というところでは、今、小学校や中学校でも地域課題の解決のためにこんなアイデアを出しましたというような発表会などもされていらっしゃるという動きで、そういったところから若い世代の、早いところで芽をつけていくということをやっているという団体もいると聞いたので、市民活動も大人の部分だけでなく、教育というキーワードがあるので、そことの庁内連携があってもいいのかなと思いました。

(山岡会長)

施策の柱4のところは第3次計画から随分変わったのですよね。多様な、まさにそういう企業や教育、学校なども意識したし、世代間のことも意識したし、やはりそこがしっかりできているかというのは今回の見直しでちゃんとチェックしていく必要があると思います。

(増田委員)

小学生に伝えるという話で思い出した話があるのですが、今、私は三保に住んでおりまして、三保第1小学校がコミュニティスクールになって、私もその委員を務めております。私の体感ですと、そこに一番、街の市民活動の方たちが集まっている印象があります。三保にも生涯学習交流館とかもあるのですが、別に一堂に介するということはしてなくて、みほしるは保全の施設なので、保全団体しか集まらないんです。そのため、地域のお祭りの方とか、私のような保全活動の人間とか、子どもたちにダンスを教えているよとか、神社に奉納する舞を教えているよとか、あとは民間企業で環境教育やっているよという方とかが、一番多様で一番集まっているのは三保第1小学校なのではという気がして。子どもたちに伝えていきたいよねというニーズを持っている市民団体があって、子どもたちが地域に出て学んでいくための授業づくり悩んでいる先生方もいらっしゃるって、そのマッチングを三保第1小学校はずっとされています。校長先生も教頭先生も異動で変わってってしまうのですが、市民は変わらないので、彼らが情報を持っているから、次の先生に引き継ぎをするというような仕組みができています。小学生とおっしゃっていただいて、確かに小学生の市民活動も主体の一つだよなという感覚だったので、教育分野や小学校とかも連携先には含まれるのだろうなと思いました。

(山岡会長)

面白いですね。学校が市民活動のハブになっているみたいなことですよね。そうすると、学校の所轄というのは当然市民自治推進課ではなくて、教育委員会とかになっているわけで、やはり、そういうところもしっかりと確認をしていく、把握していくということが必要になってくる。しかも子どもですから、先ほどの世代をつなぐということを考えても、そこは特に重視をする必要があるような気がします。

(川村 美智委員)

今の山岡会長や増田委員のお話は本当にそうだなと思います。

評価ではないのですが、今日の説明の5次総の変化のところ、もともとは市の総合計画の中で市民活動というのは市政運営の基本認識だったのが、共生・福祉・健康のところ、特化されるというのだけれど、今のお話を聞いていたら、やはり、子ども・子育てとか、教育・人づくりとか、防災も市民活動です。ですから、ここの捉え方自体がそもそもおかしいのではないかと。やはり市民活動はすごく幅広い範囲の中で市民が動いているという認識は、この位置づけを変えられないとしても、そこを担当されている担当課の方は、市民生活全般を支える基盤的な計画だというふうな思っ

てほしいなというのが一つあります。

それから、もちろん佐々木委員がおっしゃったみたいに、今の市長の考え方で、な

るべく効率的に無駄を省くということに関して、そのこと自体は間違っていないですし、賛成なのですけれど、サービスというものの捉え方で、いろんな人にサービスを丁寧にやるということがサービスなのかというと、違うかなと思って、行政でやっていくサービスは、やはり大事な情報をきちんと流すとか、今市民がやっていることをきちんと把握するとか、それも一つの重要なサービスだと思うのですね。市民側に説明をする時に、「サービス十分です」みたいな意味ではなくて、そこどころ公共性を持って、大事な情報を流していくとか、新しい情報を丁寧に市民に普及していくというふうなサービスということに少し視点を移してほしいなと思います。

(山岡会長)

5次総の位置づけは、私も見た瞬間におや？と思ったわけですが、でもこれは別に私たちが作ったわけではないので。ただ、今川村委員がおっしゃったのは本当にその通りで、少なくともこの協議会の中ではそういう認識。別にここに括られるものではなくて、子ども・子育てにも関わる。あらゆる人々の暮らしに関わる土台という認識は確認しておきたいですね。

せっかくこの基本的視点というところ二つ整理していただいたので、やはり、ここを少し意識した上で、評価の仕方を考えるみたいなことができればいいのかなと思います。

(佐々木委員)

それぞれの団体の活動の範囲や仕組みや制度などは、まちまちだと思うのです。ですが、こういうことを伝えたいとか、こういう社会であってほしいということが根底にあって動いていると思うのです。動くということは完全なボランティアなのか、若干の補助金があるのか、自分たちのお小遣い集めてでも何かやるのだとか、それも様々な気がしています。企業は企業のお給料の中で、この予算内でこのぐらいの規模感で、とにかく人を集めてごらん、なのかもしれません。ですが、全然違う市民の活動の中には、やれと言われたからやるというよりは、能動的に動いているというのがあるので、市民活動をやっておられる方々が、何か自分たちで成績表みたいなものを毎回つけるとか。例えば、市民活動センターへ相談にできるだけ行こうとか、行かないとダメだというわけではないのですけれど、自分たちの活動が、静岡市が今こうまとめている中の、表に当てはめていったときに、他の団体と協働できたかとか。静岡市が今求めている活動の動き方に則さないとかダメではなくて、自分たちなりに、いつもより何か努力したかどうかみたいなことを確認するようなチェックシートというかなにかがあると、私もそうですけれど、「他の団体に言わないで自分たちでやっちゃえ」みたいなところが、他の似たような活動団体にも声をかけたかどうかなというよう

な、例えばですが、そういうものがあってもいいのかなと思います。そうすると、結果、数値化しやすいし、目標に対してどこまで達成したかみたいことが自分たちの指標になりやすいのではないかなと思います。そうすると、窓口も相談しやすい雰囲気にもするだろうし、そういうことができるかなと。少し話が違っているかもしれないけれど、そういうのがあっていいかなと思います。

(山岡会長)

自己評価みたいなことだと思うのですが、アンケートは取るのですよね？

(事務局)

今、計画の指標になっている部分のアンケートは取る予定です。

(佐々木委員)

できるだけそういう窓口に行きましょうではないけれど、いつでもウェルカムですよというところに対して、行ってみましたかとか、市民活動として市民活動センターや生涯学習センターにできるだけ行きましょうではないですけど、やってみましたかや、相談に行ってみましたかという項目があるだけでも、もともと行こうとしていない団体も行くようになるかもしれないという、きっかけづくり。もともと行っているところは、その職員の対応はいかがでしたか？みたいなものがあるのではないかなと思うのですが、アンケートって、年に1回ひょいと来て、そういうところ行きましたかで終わってしまうとか。活動している側も、自分たちの活動を評価するようなものがあるといいのではないかな。それを市に提出するとか。それに対して、補助金が欲しいとか欲しくないとか、こういうところに相談することで、どこかの企業が、学生が、応援しやすいよとか、自分たちの活動をもっと高めるための何かがあるといいかなと思います。

(山岡会長)

そういう支援ツールがあるといいですねということですね。そういう自己チェックシートとかを活用しているところもありますよね。実は自己評価って結構難しいですけど、適切に評価をして活かすものは活かしていくという。

(川村 美智委員)

自己評価というか、自分がやっているNPOは、自分たちで評価指標を持ってやってきたのですが、指定管理者になると、それを市が勝手に取って評価指標にしちゃうのですよね。ですから私たちが100%目指してやっている、それより、120%の評価指標をやりなさいみたいになってきて、どんどん自分たちの首がしまっ

ていくみたいなことがあって、なかなか自己評価って難しいなというのはあります。

（山岡会長）

ですから、第三者が入って一緒にやれるといいのです。ワークショップ的なもの。本当に自分たちだけでやるということだけでなく。

一旦、いろいろ意見は出たと思います。スケジュール的には、次回もう1回ということとは難しいですね。

（事務局）

施策の柱3、4については指標の最新の数値が出るので、皆さんからいただいた意見をまとめさせてもらって、数値と今回の意見を見ながら施策の柱3、4は、今後どういう方向性でやっていくといいかという意見を、次いただけるといいと思います。

本日は活発な協議ありがとうございました。次回は新年度の開催となります。引き続きよろしく申し上げます。第1回協議会の際に、皆さんにも計画の冊子をお渡ししていると思いますので、柱の3、4の部分をどういう方向で見直していったらいいかというようなところを振り返っていただくのと、今日、5次総や今後の事業について急に発表させていただく形になってしまいましたので、もう1回振り返っていただくと、次回スムーズに会議に入れるのでお願いしたいなと思います。計画は市のホームページにも載っています。

第4回は6月頃開催できればと思っておりますのでよろしくおねがいたします。本日はありがとうございました。